



絆

きずな

令和5年5月
第137号

荒川区立南千住第二中学校
校長 松田 公好

南千住二中が地域に貢献

ナンちゃん・ニーくん



吹奏楽部・レスキュー部

川の手まつり ボランティア&パレード

会場ボランティア(レスキュー部)



4月29日(土・昭和の日)に「川の手あらかわまつり」が行われました。川の手あらかわまつりは、荒川区の街を活性化させるために毎年行われているもので、今年度は4年ぶりに、あらかわ総合スポーツセンター運動場を中心にしてさまざまなイベントが行われました。このイベントにレスキュー部と吹奏楽部が参加しました。

レスキュー部はメイン会場の案内などのボランティアとして活動しました。

また、このイベントの1つがパレードで、今年は荒川一中からスポーツセンターまでの行程でした。吹奏楽部はパレード用の楽器を背負い「荒川そして未来へ」や嵐の「ハピネス」等を演奏し、パレード参加者や沿道の方を元気づけました。

南千住二中の部活動が、地域の活性化にも貢献しています。



吹奏楽部

()内数字は学年

運動会練習が始まりました



入場行進の練習

5月20日(土)に運動会を実施する予定です。連休明け、その練習が始まりました。今年度は入場行進や綱引き、リレーなど、いろいろな種目も通常通り行われる予定です。

5月9日(火)午後には、3学年そろっての初めての全体練習が行われました。実行委員長の笛に合わせ、全員で入場行進の練習をしました。狭い校庭で行進・入場するのは、なかなかの難しさ。まだまだ列はそろいませんが、今後に期待ができる練習風景でした。ラジオ体操も完ぺきで

はないものの、それぞれの意識の高まりを感じることができています。

当日は保護者の皆さんの参観も通常に戻し、制限はありません。狭い校庭ではありますが、ぜひご参観を！



ラジオ体操の練習

離任式

4月21日(金)、**離任式**が行われました。これまで感染症予防のため実施できない年が続きましたが、今年度は昨年度末で退職・転出した先生方(前号で紹介)をお迎えして全校で実施することができました。



この日お見えいただいたのは、**飯田先生、飯島先生、井上先生、水村先生**、そして現2年生がお世話になった国語講師の**西窪 秀子先生**の5人。各先生に代表者が感謝の言葉を述べ、花束を贈りました。各先生方からもメッセージをいただき、和やかに式が進みました。校務の関係で来られなかった先生にも、後日、感謝の言葉を送付させていただきました。また、先生方の入退場時には、吹奏楽部の演奏が行われ、式を華やかに盛り上げました。

退職・転出された先生・主事さん方、これまでありがとうございました。

<感謝の言葉・花束贈呈の担当者>

飯田先生→	(3)
水村先生→	(3)
井上先生→	(3)
飯島先生→	(3)
西窪先生→	(2)
松本先生→	(3)
長田先生→	(3)
高取先生→	(2)
山田さん→	(3)

<感謝の言葉表紙絵担当>

(3)
(2)
(3)
(2)
(2)
(3)
(3)
(2)
(3)



()内数字は学年



JRC登録式

4月26日(水)に、**JRC登録式**が行われました。南千住二中は、JRC(Junior Red Cross = 青少年赤十字)に全校加盟しており、地域清掃やボランティア活動などに取り組んでいます。JRC委員会や学校の特色であるレスキュー部の活動もこのJRCの活動に深く関わっています。



全校生徒で「誓い」を唱和

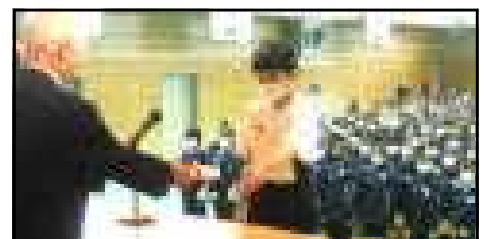
毎年4月にはその登録式を行います。登録式は、全校生徒がJRCの一員である自覚をもち、「**気づき 考え 実行する**」という態度目標のもと活動していく「誓い」の場でもあります。

4年ぶりに行われた全校での登録式では、生徒会本部役員への宣誓に続き、全校生徒が復唱しました。また、式の中ではJRC委員長、レスキュー部部长がそれぞれ活動報告をしました。



活動報告

新たに登録された1年生の代表には、この日講師としてお見えになった日本赤十字東京支部の**小川先生**からJRCバッジが授与され



JRCバッジの授与

ました。

式の終わりには全校生徒で校歌を斉唱し、「誓い」を新たにしました。

前期 生徒総会



全校生徒が
アリーナに集う

5月2日(金)に、**前期生徒総会**が行われました。生徒総会は生徒会の最高議決機関です。南千住二中では毎年、前期、後期の2回行われています。アリーナに一堂に会しての生徒総会は実に4年ぶりということになります。生徒会本部もこの形式は初めてのことでしたが、事前からしっかり準備を進めてきました。

令和5年度の専門委員会が発足すると、各委員会で活動方針や具体的な活動計画の案が話し合われました。その案を中央委員会が議案書としてまとめ、各クラスでの討議を経て、生徒総会への意見が出されました。議長団には中央委員会から推薦を受け、議長3年生1名、副議長3年生1名・2年生1名、書記には3年生2名・2年生1名・1年生1名の計7名が選出され、議事を進めました。



議事進行を務めた議長団

総会では各クラスで討議された質問や意見を代表が発表し、生徒会本部や各委員会の考えを委員長が答弁するスタイルで進められました。初めは生徒会本部への質問でした。今期の生徒会本部が何を目標にし、全校生徒に何を訴えているかがよく分かりました。活動方針は会員である生徒が起立し承認されました。その後は各専門委員会の活動方針に対する賛成意見、質問、修正案など、活発に意見が出されましたが、各委員会の委員長が委員会の考えと方針を説明し、全生徒が納得した上で、これも承認されました。

総会の最後には、各学年、各クラスの目標が発表され、立派な生徒総会が幕を閉じました。



質問に答える委員長

生徒会専門委員会委員長

学級委員会	(3)	図書委員会	(3)
健康委員会	(3)	環境委員会	(3)
JRC委員会	(3)	放送委員会	(3)

※ 4/24(月)には生徒会専門委員会認証式がありました

()内数字は学年

2年生

区オーケストラ鑑賞教室

連休明け5月8日(月)午後、荒川区立中学校オーケストラ鑑賞教室が行われました。本格的なオーケストラの演奏を生で聴くことができる貴重な機会、南千住二中は毎年2年生が参加しています。

この日は“**東京都交響楽団**(指揮; 船橋 洋介)”が上野の東京文化会館大ホールで演奏してくださいました。2年生は少し早めの給食をとり、学校を出発。会場に入ると楽団員の方がチューニングを始めていました。ビゼーの「カルメン」から演奏が始まると、その迫力に圧倒され、美しい音色に引き込まれました。オーケストラを構成する楽器の紹介に続き、かの有名な「運命」や「アルルの女」などが演奏されました。どれも一度は耳にしたことがある曲で、あっという間に時間が過ぎました。アンコール曲は、これまたよく知っている「ラデツキー行進曲」でした。

あまりの心地よさにウトウトしてしまった生徒もあったようですが、総じて鑑賞態度も立派でした。音楽の素晴らしさとプロのすごさを感じることができました。

よろしくお願いします NEAの先生、教育実習生

5月1日(月)からNEAの先生が配属になり Glicel(グリエル) Gonzaga 先生が昨年度から引き続きお見えになっています。これから1月までお世話になります。また5月8日(月)からは、3週間の予定で英語の教育実習生が来ています。よろしくおねがいします。

部活動等の活躍

《バレーボール部》

荒川区中学校春季強化大会 女子の部 **準優勝**

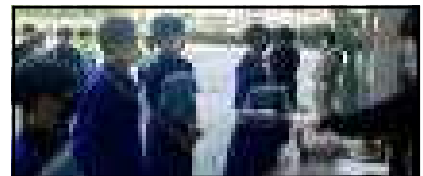
東京都第5ブロック中学校夏季選手権大会一次予選 女子の部 **ベスト8進出**

《ソフトテニス部》

【男子】荒川区中学校春季研修大会 男子団体の部 **準優勝**

荒川区中学校春季研修大会 男子個人の部

(3)、 (3)組 **準優勝**
(3)、 (3)組 **第3位**
(3)、 (2)組 **第3位**



ソフトテニス部表彰式(荒川三中にて)

《バスケットボール部》

【男子】荒川区民大会 中学生男子の部 **優勝**

優秀選手 (3)、 (3)

【女子】荒川区民大会 中学生女子の部 **第3位**

優秀選手 (3)

()内数字は学年

南千住マイスターのコーナー

南千住の回向院には「観臓記念碑」という石碑があります。この石碑は、江戸時代、オランダの医学書「ターヘル・アナトミア」を翻訳し、あの有名な「解体新書」を発行するために行われた「腑分け(人体解剖)」がこの場で行われたことを記念してつくられたものです。この解体新書を発行したのが「杉田玄白」です。玄白は、江戸牛込で享保18年(1733年)9月13日に生まれました。家は若狭国(わかさのくに)小浜藩(現在の福井県)の医師で、そのため青年期には医学修行を始めます。その後小浜藩の藩医となり、父が亡くなると、家督と侍医の職を継ぎました。

玄白は明和8年(1771年)、オランダの医学書「ターヘル・アナトミア」に出会います。本文は読めなかったものの図版に目を引かれます。京都で行われたとされる腑分けの資料と驚くほど一致していました。このことが当時医学界で信じられていた五臓六腑説に疑問を抱くきっかけになりました。そして志を同じくする蘭学(オランダの学問)仲間とともに腑分けを自分たちの目で確かめようと決意します。当時人の遺体にメスを入れることは厳しく禁止されていました。幕府の許可を取り、前野良沢らと一緒に千住小塚原の刑場で腑分けを行いました。人体解剖は蘭書(オランダの書物)の正確性を証明し、玄白は、この医学書を翻訳しようと考えました。辞書もなにもなかったこの時代では大変な困難でした。翻訳が不完全な部分もありましたが、玄白は医学の発展のために「解体新書」を発刊したのでした。この医学書のおかげで、日本の西洋医学はめざましく発展します。玄白も将軍に良薬を献上したり、優秀な外科医として毎年千人以上を治療したと言われています。

玄白は晩年、「回想録「蘭学事始」」を著し、当時では長寿の85歳の人生を全うしました。

南千住と歴史上の人物 その2 『解体新書』① 杉田玄白



小塚原回向院
観臓記念碑